

動物の義足やさん



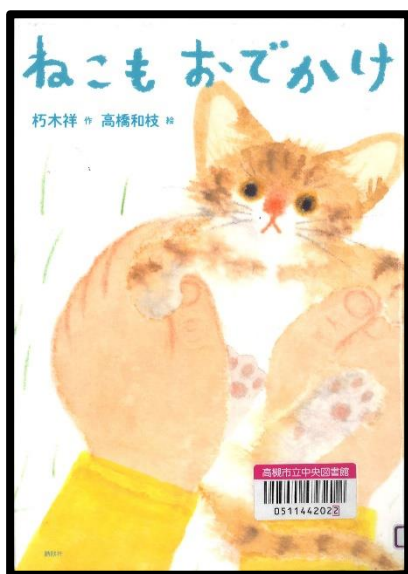
沢田 俊子文
講談社〔649〕

島田さんは、人のために手足の代わりに義肢を作る義肢装具士を目指していましたが、犬やねこにも、手足の代わりに義肢があればと考え、動物の義肢を作る製作所を立ち上げました。

製作所を立ち上げた当時は、動物に義肢を作ることを否定され、ほとんど注文はありませんでした。その後、少しずつ全国に広まり、犬やねこなどのペットや、水族館のペンギンにも装具を作ってきました。

今までに、三万匹分の義肢や装具を作ってきた島田さんの活動を紹介します。

ねこもおでかけ



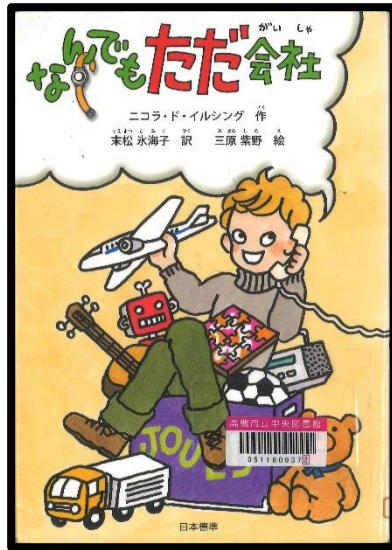
朽木 祥/作
高橋 和枝/絵
講談社〔913クツ〕

小学生の男の子、信ちゃんはラブラドル犬のダンの散歩中に、捨てねこを見つけます。小さい茶トラの子ねこは「トラノスケ」と名づけられ、信ちゃんの家族の一員になります。

ある時、トラノスケがおでかけをしてなかなか家に帰ってこないことがありました。トラノスケがどこにしているのか気になった信ちゃんは、トラノスケのあとをつけていきます。

本のさいごにねことなかよくなる、豆知識がのっています。

が い し ゃ なんでもただ会社



ニコラ・ド・イルシング/作

すえよし ひ み こ
末吉 永海子/訳

み は ら し の
三原 柴野/絵

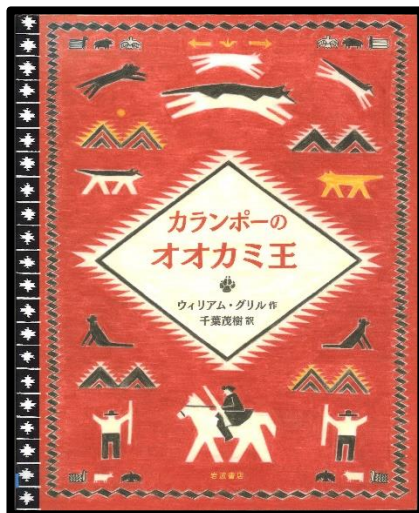
日本標準 [953イ]

おにいちゃんとふたりで留守番^{るすばん}をしていたティエリーは、たいくつでどうしようもなく、いたずら電話をかけていました。するとほしいものを注文すると、なんでもただでくれる会社につながりました。

会員登録^{とうろく}をして、ほしいものを注文すると、ただでとどけてくれるというので、ティエリーは会員になることにしました。ただ、一つだけまもらなくてはならない規則^{きそく}があり、規則をやぶると、おそろしいことがおこります。

ハラハラ、ドキドキちょっとこわくてももしろいお話です。

カランポーのオオカミ王



ウィリアム・グリル/作

ち ば し げ き
千葉 茂樹/訳

岩波書店[エ]

動物学者・博物学者^{はくぶつ}として名をあげたシートンが、動物物語の作家として大きく飛躍^{ひやく}するきっかけとなったのは、カランポー平原のオオカミ王、ロボとの壮絶^{そうぜつ}な戦い^{たたか}でした。

「このできごとは、まぎれもなく私の人生の転機^{てんき}になった。」とシートンは語り、生涯^{しやうがい}にわたってオオカミの保護^{ほご}と、アメリカの自然環境保護^{しぜんかんきやうほご}に身を捧げました。

悪名高い灰色^{はいいろ}オオカミの絶対的王者^{ぜったいてき}、ロボの最期^{さいき}は、人間に何を問いかけているのでしょうか。